

ここが聞きたい!!

一般質問

6議員が村政を問いました

・ 広島平和体験学習の充実 ・ 特別支援員の配置



五十嵐正雄議員

1 「広島平和体験学習」の充実

の充実

問 広島平和体験学習の取り組みは、28回目を数え4名の生徒と引率1名体制で実施され、帰村後は平和を考える映画会や村広報誌等で村民に広く参加報告が行われています。しかしながら、広島までの行程や8月の猛暑等に伴う生徒の体調悪化などの事態が発生したことに鑑み、今年度は生徒に対する安全性確保のため、引率者を1名増員し

2名体制で実施してきました。今後も生徒の安全を考えると引率者2名での実施が望ましいと考えられ、事業費の増額が必要と思いますが、村長の考えを伺います。

中村村長

当事業は平和の村宣言を具現化する政策として村民に広く理解され、長年継続されている事業です。また、村内

外にも高く評価されており今後も継続していきたい。また、派遣している子供たちにとっても貴重な体験であり、その経験を広く村民に伝えて後世にも語り継がれるものであり、教育という側面を持つていことから支援していきます。

引率者増員に伴う事業費の件については、実施団体から実態

及び決算書、計画書が出されており助成額の増額について要望があります。内容を精査しながら、新年度予算に向けて検討していきます。

2 小学校に特別支援員（学習支援員）の配置

問 本村における複式学級の現状と今後の見通しはどのようになっているのか、また、占冠中央小、トمام小の特別支援員の配置の現状は。



複式学級の授業風景

藤本教育長

今年度は、占冠中央小学校、トمام小学校ともに完全複式の3学級でスタートし

ています。今後の見通しについては、増減はありますが全体での児童数は現状のまま横ばいで推移するものと考えます。

占冠中央小学校は来年、1年生の数が増えるので1学級増の4学級で編成になる予定です。

学習支援員の配置状況は、占冠中央小学校に1名、トمام小中学校に1名の合計2名が配置されています。

問 複式学級の授業は、1限の中で1学年を10分授業をしたら次にもう一方の学年を10分実施しこれを交互に繰り返していく方法で進められていると伺っています。本来、子供たちは1限を目いっぱい授業を受けられませんが複式学級であるがゆえに半分しか受けることが出来ません。

授業を進める先生にしても2学年を1限で教えていくことになりそうですから大変な苦勞を強いられているのが実態です。

複式学級に学習支援員を配置し占冠ならではの教育を推進していく考えがあるか伺います。

藤本教育長 基本的には1学級1人の担任の先生でその事業を展開していく方法がベターだと思います。国等の制度上で定数

の問題があり各学年1人というものについては、各クラスの数によって縛りがあります。次年度は、村と予算調整を図り支援員を配置できるよう取り組んでいきます。

3 公契約条例の制定

問 村で発注する事業において受注事業体に働く労働者の労働条件が不当に低く抑えられている実態があります。これらの問題に歯止めをかけていくためには、公契約条例の制定が強く求められていますが村の取り組みを伺います。

また制定までの間、村としてチェック体制をどのようにしていくのか伺います。

中村村長

本村におきましても、働く人の労働環境改善の取り組みは必要と考えています

が、入札制度の条件整理にまだ時間を要する状況と判断します。

村としては、事業者に対し関与できる範囲で指導・指示を行うなど、協力を求める努力をしていきます。

トマムの定住対策 ・ 狩猟事故と猟区



山本敬介議員

1 トマムの定住対策

問 トマムリゾートの西寮が閉鎖され、従業員はホテル（ヴィラスポーツ）に入ったと聞きま

中村村長 今回、ヴィラスポーツへは約80人移動し、ヴィラスポーツ以外へは13人、うち村外7人、村内6人と聞いています。

問 ヴィラスポーツは長く住むにはほど遠い施設と認識しています。リゾートとの話し合いを持たれているのか、伺います。

中村村長 トマムの総支配人とは、従業員寮や定住についても意見交換していますが、従業員の生活圏が十勝圏にあり、具体的な対策には至っていません。

問 若者に来てもらえないという町村が多い中、我が村にはリゾートで働いている方がいる訳です。村長には定住してもらおうという気概があるのですか。私が議会に出て、2年8カ月になります。トマムで定住について進められた事は一切目にしていません。具体的にトマムでどのような定住政策を進められるのか伺います。

中村村長 定住していただきたいという気持ちは十分あります。トマムの住民の方の要望は、他地域とは違いますので、集落対策で培ったノウハウを生かして、地域の方と一緒に考えていきます。賃貸住宅は、リゾートの職員向けになると思いますので、企業の意向も聞きながら対策を進めていきます。

問 リゾート産業は村が10年にわたって力を注いだもので、働く方に定住してもらう努力は必須です。本気でリゾートと話を進めてもらいたいが、伺います。

中村村長

村の思いをリゾートに伝え、トマムに定住していただけるように考えていきたいと思えます。

2 狩猟事故と猟区

問 閉鎖された西寮の今後は。
中村村長 村の賃貸物件ですので、他の施設と同様に維持補修されると考えています。

問 最近、全国で狩猟の事故が続いていますが、村ではどのような対処をしていますか。

中村村長 直近の事故を受けて文書で猟友会占冠部会有害獣駆除従事者に注意喚起を行いました。

問 本年度の有害駆除頭数は。
中村村長 11月末現在、ヒグマ1頭、アライグマ2頭、エゾシカ235頭です。

問 有害駆除頭数は低調ですが、エゾシカ肉の販売は好調で、在庫もほとんどない状態と聞いています。しかし、シカの頭数は減っておらず、農業被害の軽減もさほどされていません。これを解決するには、占冠村全域を猟区に設定して、狩猟事故の危険軽減と、シカを油断

させ獲りやすくすることが重要だと思いますが、猟区の進捗を伺います。

中村村長 平成26年9月15日から翌年の1月31日の狩猟期に向けて猟区設定をするため、北海道の補助事業「地域づくり総合交付金」の交付決定を受けました。

問 来シーズンの狩猟期には猟区設定するという事でしょうか。

中村村長 国の許認可事項ですが、それをめどに進めています。

3 地域材の活用

問 クラフトは、地域材の有効活用の最終的な出口として重要です。クラフトをしつかりサポートしていく意味からも、長室の応接セット入れ替えにあたって、村の工房製品を使うべきと思いますが、伺います。

中村村長 クラフト工房に問い合わせたところ、家具類の制作も可能と回答がありましたので、占冠産材を使ったテーブルを考えています。また、村内の木材利用促進としてクラフトの記念品も考えています。

8

4 物産館の パブリックスペース

問 以前にも質問した、物産館1階の障がい者の方も使用できるトイレがあるパブリックスペースの休日について伺います。

中村村長 4月から10月の7カ月間で1階のパブリックスペースの使用できない日は7日間です。冬期間は休日が増える状況にありますが、ずっと閉館するのは難しい状況です。

問 例えば休日には、道の駅へ誘導できる看板を設置できないか伺います。また、1階のシャッターの位置を変えれば問題は解決すると思うのですがいかがでしょうか。冬の施設前のスロープの除雪と併せて伺います。

中村村長 シャッターは数万円かかるとい見積りです。誘導に関しては一考しなればならないと考えています。冬のスロープの除雪ですが、今のところは考えておらず、現状で対応していきたいと考えています。

農業振興対策

湯の沢温泉の運営状況



小峰義雄議員

1 農業振興対策

問 10月16日に発生した降雪によるハウスの倒壊があり農家数2戸で、ハウス5棟のうち3棟は共済組合の保険対象になったと聞いていますが、村の対応はどのようなになっていますか。

中村村長 罹災農家の聞き取りでは、来年度ハウスの更新と合わせて露地栽培作物への転換を検討とのことです。来春の営農計画時に再度聞き取りを行い検討したいと思います。

問 畑作農家の鹿の被害対策ですが、村長は6月議会の答弁で鹿柵について、国の補助金や村の補助金で対応し受益者負担がどの位になるか検討すると答弁されています。その後について伺います。

中村村長 近年居住地に近い畑作地でシカによる被害が確認されています。有害駆除による被害対策が困難であることから、耕種作物の作付地を対象とした鹿柵設置を行いたいと思います。

問 農家負担が25パーセントは厳しいのでは。

中村村長 農家と膝を詰めて村の説明と農家の意見を聞いて進めます。

2 湯の沢温泉の運営状況

問 湯の沢温泉は過去の経過はありますが、村民福祉の向上、観光振興、地域の活性化を目的に改修し、3年間の民間委託契約の1年が経過しました。現状と今後について伺います。

中村村長 入込み等については、自主事業を含め第三セクターでやっている時より大幅に増えたと聞いており、今後もあると考えています。

問 湯の沢温泉で初めて薪利用によるボイラーが12月20日に稼働すると聞いています。地域資源を生かした木質バイオマスの利用事業の成果や今後の課題点をどのように分析していますか。

中村村長 化石燃料から木質バイオマスエネルギーへの転換によって、二酸化炭素の削減やこれまでA重油購入費として村外へ流出していた資金が村内で循環することで地域経済の活性化につながるものと思っています。木質燃料は火力の安定性が若干劣るところが課題ですが、今後の運用で克服されると思っています。

問 薪の販売価格はいくらですか。

中村村長 供給する側と使用する側、そこで基本的に決まるものと考えています。

問 現在も決まっていないというのですか。

中村村長 1立方メートル当たり2万円以内と聞いています。

問 湯の沢温泉だけの問題ではなく、今後の村民の利用も考えると、価格の設定に村が全く関与せず民間任せでいいのかどうか、疑問に思いますが伺います。

中村村長 薪の供給には、村有林の林地残材を予定しています。当然価格設定にはそのことも配慮するよう、業者に村の意思は伝えていきます。

問 民間だから村は全く関与しないでいくのか。将来的利用のことも考えて、行政として理解を頂きながら決めていくのか伺います。

中村村長 村で進めようとしているバイオマスの普及を考えると、当然意見は言わせていただきます。

問 もちろん業者も成り立っていかねばなりません。それには村の支援策等も必要だと思います。行政も適正な価格を踏まえて取り組んでいただきたいと思えます。

中村村長 普及しやすい価格が望ましい訳で、村も関与していきたいと思います。

問 新生産業者に対する支援等について伺います。

中村村長 当面の間、村有林から原材料の供給、新生産施設の改修、国・道の施策の中で活用できるものは活用し支援します。

問 予想される湯の沢温泉の燃料費の削減効果は。

中村村長 現在A重油ボイラーを使っていますが、2〜3割の削減と聞いています。

問 湯の沢温泉で利用する利用量の予測と、今後木質バイオマスの利用拡大を図ったときの年間利用の可能量は。

中村村長 湯の沢温泉への供給は年間5〜600立方メートル。村全体では3000立方メートルを予測しています。



湯の沢温泉への薪搬入の様子